実施報告書

参加人数　122 人（Ｚｏｏｍ参加 99 人・会場聴講 23 人）

プログラム

主催者挨拶

横地 眞澄（静岡県くらし・環境部 県民生活局長）

基調講演

「性の多様性を尊重する」とはどういうことか

～人権を基盤に考える～

渡辺 大輔 氏（埼玉大学基盤教育研究センター准教授）

パネルディスカッション

誰もが暮らしやすい社会の実現のためにできること

閉会

高橋 由利子（静岡県くらし・環境部 男女共同参画課長）

令和２年１１月２日(月)１３：３０～１６：３０

オンライン（Zoom）開催

基調講演　演題：「性の多様性を尊重する」とはどういうことか
～人権を基盤に考える～
講師：渡辺 大輔 氏（埼玉大学 基盤教育研究センター 准教授）

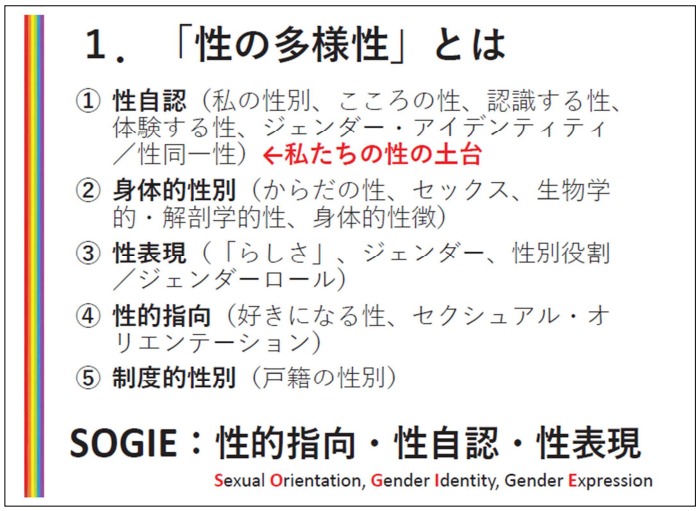
講師紹介

教育学博士　一般社団法人“人間と性”教育研究協議会幹事
専門は教育学（セクシュアリティ教育）。講義、講演、執筆のほか、中学校や高校の先生との授業づくりなどを通して、性の多様性について、学校でどのように教えたらよいかに取り組んでいる。
著書に『性の多様性ってなんだろう？』（平凡社）　他多数

《基調講演の要旨》

初めに、交通事故を例に、「外科医」と「父親」、「息子」との関係性について考えてみてください。
皆さんはどのような関係性が浮かびましたか。

外科医といったら男性をイメージしてしまう方が多いと思いますが、外科医は女性の可能性もあるし、男性のパートナーと共に子育てをしている男性だったり、場合によってはトランスジェンダーの男性ということもあるかもしれません。私たちは、いかに思い込みに囚われているか、私たちの社会がマジョリティー中心となっており、セクシュアルマイノリティにとってはいかに生きにくいかということになります。



性のあり方を示す「ものさし」（側面）としての性的指向・性自認・性表現の頭文字をとって SOGIE（ソジイー、ソギー）という言葉があり、その多様性を尊重することが求められます。

この SOGIE を含む、性自認、体の性、性表現、性的指向、制度的性別について、ほぼ全ての人がこの５つの側面を持っていることから、性の多様性の話というのは、人ごとではなく、私たちみんなの話であるのです。

さて、人権を基盤に考えたときに、権利の主張をすると「わがままだよね」と言われることがありますが、人権は「わがまま」ではなく、アイデンティティの問題であり、かつ、誰かに強制されたり制限されたりすることなく自分で選択できるという、権利の保障の問題です。

多くの人が何も考えずに「普通」に行えていること、「普通」に行われることが、実は「特権を持っている」ということなのです。多数派にいる人が少数者に対し特権を持っているので、不平等を是正するために社会（法や制度や意識）を変えていくことが、人権を基盤にするということになります。

社会も少しずつ変わってきています。一例を挙げると、自治体での同性パートナーシップ制度導入や、履歴書の性別記載欄の撤廃、セクシュアルマイノリティに関する厚生労働省や文部科学省からの指針などがあります。

しかし、教育現場においては、セクシュアルマイノリティの児童生徒に対して「特有の支援が必要である」という文部科学省の通知があるにもかかわらず、制服や髪型などの校則、整列や名簿の男女分けなど、不必要な男女分けの慣例・慣習が残っています。また、異性愛を前提とした学習指導要領や教科書の記述もあり

ます。これらは早急に見直さなければなりません。
　性だけではなく「いろんな多様性を尊重しましょう」という土壌を作ることがすごく大事ですので、様々なところで肯定的な情報を発信していってください。

　そもそも、なぜセクシュアルマイノリティへの「支援」が必要なのかというと、人間の性のあり方が多様であるという視点を無視して学校や職場を作ってきたため、セクシュアルマイノリティを排除してきたからで、結果として「支援」や「配慮」が必要な状態にさせているのです。
　私たちに必要なことは、性の多様性を前提に学校をはじめとした社会システム全体を作り直すことです。

　今、ダイバーシティ（多様性）という言葉が使われるようになってきました。「私たちって多様だよね」という認識を持つことです。いろいろな企業の中でもダイバーシティという言葉をよく使っていると思います。
　もう一つはインクルージョン（包摂）という概念もあります。多様性を前提とした環境（システム）を作ることです。合わせてダイバーシティ＆インクルージョンと言ったりします。
　そのあとに、ビロンギング（所属感）という言葉を使っているところもあります。システムがあったとしても、「何か自分の居場所がないなぁ」と感じられることもあるかと思います。ちゃんと自分が表現できて、自分の意見や言葉を聞いてもらえる、それによって所属感を得られる環境作りが重要となっています。
　インターセクショナリティ（交差性）という言葉もあります。私たちは、人種や民族、国籍など非常に多様ですし、障害の有無や信仰する宗教も多様です。それが、一人の人間の中にいろいろな形で組み合わさっています。いろいろな要素が組み合わさって個性的な私が出来上がっています。

　ですので、外国籍で障害のあるセクシュアルマイノリティの人だっています（トリプルマイノリティ）。マイノリティ性が重なれば重なるほど、この社会では見えない存在に、声を上げにくい存在になってしまいます。
　そういういろんな要素が重なりあっているのだという「交差性」というのが非常に重要な概念として提起されており、そういった、様々な性を生き、様々な要素を持って生きる全ての市民が安全安心に生活ができるように、人権を基盤とした制度と人間関係を作ることがこれからの私たちの課題となります。

【渡辺先生の著作】